

第78回 美都地域協議会				
開催日時	令和2年3月30日(月) 午後3時30分～			
開催場所	美都総合支所			
委員出席状況	委員総数	10名	出席委員数	7名
会議録署名委員	潮 榮 委員 ・ 梅津 富美子 委員			

【協議事項】

令和2年度施政方針について

【情報提供】

- ・ 令和2年度美都地域の主要事業について
- ・ 地域コーディネーターの活動報告について

	氏 名		出欠	氏 名		出欠
	協議会組織構成員	委員	潮 榮	出	委員	草野和馬
委員		梅津 富美子	出	委員	杉島逸朗	欠
委員		大石 康人	出	委員	田中 綾	出
委員		小川 美知子	出	委員	土佐 則幸	出
委員		木原 元和	出	委員	広兼 重継	欠
益田市		市長	山本 浩章	出		
公民館	東仙道	野村 達也	出	都 茂	河野 敏弘	出
	二 川	小原 美智子	出			
事務局	支所長	島田 博	出	地域振興課長 (兼教育部)	松崎 徹	出
	地域振興課 参事 (兼産業経済部)	石橋 睦男	出	地域振興課 分室長 (総務部・政策企画局)	浅野 隆司	出
	地域振興課 分室長 (建設部)	河本 昭宏	出	地域振興課 分室長 (福祉環境部)	中島 純子	出
	地域振興課 主 幹	齋藤 千代子	出			

次 第	内 容
1. 開会	<p>(事務局) それでは時間になりましたので、協議会を始めさせていただきます。本日の委員さんの欠席ですが、草野和馬委員、杉島逸朗委員、廣兼重継委員 3 名が欠席と聞いております。杉島委員につきましては今他の会合があるようでございまして、遅れて来るかもしれないかと聞いておりますので途中で会議の方へ入られるということになるかもしれませんのでお知らせしておきます。それでは最初に会長挨拶ということで挨拶をお願いいたします。</p> <p>●欠席者： 草野委員、杉島委員 廣兼委員 ●議事録署名者：潮委員、梅津委員</p>
2. 会長挨拶	<p>(会長) 皆さん改めましてこんにちは、先程も話がありましたが連日のように報道では中国初のコロナウイルスが猛威をふるってございまして、世界的な脅威となっております一日も早く終息することを願うしかございません。</p> <p>本日は年度末お忙しい中皆さん方には出席をいただきまして誠にありがとうございます。市長さんには年度末で大変忙しい中調整して出席をいただきまして誠にありがとうございます。私たち委員も最後の任期となって参りました。前回 77 回で協議をいただきその後文書をお送りして確認をいただきました。最終年度にあたりまして、地域課題解決にかかる要望書を、先般 23 日に午前 10 時 30 分より書記が持参そして島田支所長さん松崎課長、僕と同行し山本市長に説明の上お渡しをいたし、市長さんより今回の要望については、重く受け止めて今後の市政に反映していきたいというコメントをいただいております。以上が要望書にかかる報告でございます。</p> <p>本日の会議は、市長さんにご出席をいただきまして令和 2 年度の市政方針の説明をいただくこと、そしてお手元に配っておりますように美都地域の主要事業、それから地域コーディネーターの河野さんの活動報告をいただくということにしております。それから支所の新聞報道等でご存知かとございますが、支所の職員の人事異動内示も発表されておりますので支所の関係のところは後程のその他のところでご紹介なりしていただきたいと思っております。</p> <p>本日は、大変忙しい中出席をいただきましてありがとうございます。只今から始めていきたいと思っておりますのでよろしくお願い申し上げます。</p>
3. 市長挨拶	<p>(事務局) ありがとうございます。それでは、続きまして山本市長の方から挨拶をいたします。</p> <p>(市長) それでは失礼いたします。いよいよ令和元年度も今日・明日となりました。そうした中で美都地域協議会の皆様方には、平成 16 年の 11 月以降でありますので 15 年余りの間、地域協議会委員として貴重なご意見を賜り、また諮問に対しまして答申をいただいて参りましたこのことに対しまして改めてお礼を申し上げます。これまで主に合併の微調整項目についてその調整につきましてご尽力をいただきました。また諮問をさせていただき、答申をいただいた項目といたしましては、平成 19 年度に地区振興センター・公民館にかかる今後の方針、平成 22 年度に地区振興センター・公民館の運営体制、平成 26 年度に顧問制度について、答申をいただいております、いずれも市政に反映することができたと考えております。また、新市建設計画の進捗状況につきましても既に完了した事業、例えば美都学校給食調理場の改修</p>

でありますとか、本支所庁舎の耐震化事業、また柚子搾汁施設の整備事業、等々がございます。現在実施中のものとしましては、道路整備事業・双川峡の落石対策事業等があるところです。また矢原川ダム関連事業につきましても今既に進んでいるところがございます。また令和 2 年度には二川小学校跡地の活用事業に着手いたしますし。ただ未着手の事業といたしましてまだいくつか残っている状況でございます。こうしたこれまでの進捗につきましても改めて感謝申し上げる次第です。また先般地域協議会の皆様から要望書を承りました、先程会長からもコメントがございましたが、この要望を深く受け止め今後市政に反映していきたいと考えております。

美都地域協議会は今年度末をもって廃止となりますが、皆様方からいただきました様々なご意見につきましても引き続き尊重させていただくというところに、美都の住民の皆さまのご意見をいただくことにつきましても、今後とも積極的に努力して参りたいと考えております。委員の皆様方のますますのご健勝ご活躍を祈念申し上げます。今回最後となる美都地域協議会の冒頭のごあいさつとさせていただきます。

(事務局) それでは、協議事項の方に入らせていただきます。これから以降につきましては会長の方で進行のほどよろしく願いいたします。

(会長) 本日傍聴の希望がございますがよろしいでしょうか。

(委員) よろしいです。

(会長) それでは協議事項に入ります。本日の議事録署名者は潮委員さんと梅津委員さんをお願いをいたします。それでは、早速ですが、協議事項 1 番の令和 2 年度の市政方針についてお願いします。

4. 協議事項 ・令和 2 年度施政方針について

(市長) それでは本協議会をお借りしまして令和 2 年度の市政方針につきましてご説明させていただきます。既に 3 月の定例協議会が終了しておりますので予算についても予定通り可決していただきました。市政方針についてもこの考えに沿って進めさせていただきます。では、まず 1 ページ目をお開き下さい。はじめにとしまして、これまで人口拡大計画、益田市総合戦略、そしてひとつづくり協働構想、こういった計画に基づいて市政を進めてきたことと、その中で特に平成 29 年度から連携という言葉強く意識して進めてきたことを述べております。そして一番下の段落以降は平成元年度における連携の成果を明記しております。この中で 2 ページ目の一番下の段落からひとつづくりについての成果を書いております。特に今年の成人式において新成人に対するアンケート調査を行いました。今年度の新成人が益田版カタリ場を最初に行った時の高校一年生の年代であります。この子どもたちの、益田には魅力的な大人が多い、そして一度は外に出たとしてもまたいつか益田で暮らしたい、という回答が昨年度の回答と比較してどちらも 19 ポイントも伸びております。こうしたことから、益田のひとつづくりが確実に定着しているということが伺えるかこのように見ております。その下の段落からは令和 2 年度に策定をしたり、もしくは準備を進める計画など多く述べております。特に令和 2 年度においては総合振興計画の 6 次の計画と第 2 期となる益田市総合戦略を併せて改定していくことで非常に重要な節目となります。残念ながらオリンピック・パラリンピックについては

今年開催は無くなりまして、今政府においては来年7月の開催で調整しているというところでありますので、おそらく事前キャンプについては今年開催は無いというところであります。大変残念なところでありますけれど、どちらにしましても令和2年度が非常に節目という年では大きな意味がありますので、ここに書かれたような内容で進めていきたいと思っております。5ページ目、5ページの下段のところは連携の具体化と結実と書いてありますが、これが本年度令和2年度の主な大きな考え方ということになります。特に連携については、3つの重点要素を意識することにしています。1つ目が一番下の段落に書いていますSDGsに関連する連携というものです。このSDGsは国連で採択された2030年までに世界全体で達成するために努力することになっている17の目標であります。この目標を常に意識しながら他の団体、機関等々と連携をしていきたいと考えております。2つ目の重点要素は、6ページの下段に書いております島根県との連携ということです。特に昨年の5月から丸山知事が就任されて、「島根創生」の実現あるいは「美肌県しまね」といったことを表号されています。島根創生については、子育て支援の充実や東西問わない県内全体の発展の地域作りを重点とされております。また、美肌県しまねについても、島根県東部だけではなく西部を含めた発信をしていこうとされております。こういった流れを受けて島根県と連携を更に重視して進めていきたいと思っております。3つ目の重点要素は、7ページ目の中央よりやや下にあります民との連携ということです。民との連携については商工会議所・商工会・JAといった経済団体や住民の皆さまの団体・また企業・民間多くの方々、こういった方々と広く連携することを重視していきたいと考えております。特に8ページ目の丁度中央ぐらいに書いてあります中間支援組織、これについては年度当初早々に設立される予定になっておましてこの中間支援組織を設立育成し、こういった組織が地域や様々な活動を支援していくことになっております。それ以降の個別の施策につきましては細かい内容が含まれておりますので割愛をさせていただきます。こういったような考え方で令和2年度の事業を進めていきたいと考えております。委員皆様方には、今後ともこの地域の中におきましていろいろなお立場からご指導やご協力を賜りますようお願いいたします。それでは、私の方からの説明は終わります。

(会長) それでは皆様方から、ご意見やご質問ご要望等について聞きたいと思えます。どなたか手を挙げてください。

(委員) 市長これで協議会が終わりなんですけども、さっきちょっとお話をした今後美都匹見の意見を聞く方法でね、どのようにどのような形で意見を聞いて市政に反映していくのかを教えていただけるのかということと、またそれが実際にちゃんと我々の意見が市長に届いて市政に反映されているのかという検証の場をどのようにするのか、しないのか、そのへんを多分皆さんこれで終わりなのでどうされるのかなど。また、この間の要望書に載っていたんですかね？確かそれをどのように今後考えておられるのか、されていかれるのかを聞かせていただければと思います。

(市長) 地域協議会というのは廃止になります、これは合併時に設けられた条例に基づく機関として重い位置づけを持った機関であったかと思えます。私のモットーとして対話と協調を重視しているということからも、益田市の中心部のみならず、

周辺地域、また特に合併後 15 年とは言えまだまだ未調整項目も残っている。美都町 匹見町の住民の方々のご意見をお聞きして、それを一つひとつ市政に反映していくということの重要性については、今後とも、今後ともと言いますか、今回の廃止をもってということにしても変わらないものと思っています。具体的にどういった形で、あるいは、どういった頻度で、回数で住民の皆さまの意見をお聞きするのかということについては、申し訳ございませんがまだ具体的には詰めておりません。まだ具体的には固まっていないところでもあります。また同じようにいただいたご意見と言いますか、承ったご意見を反映していったかどうかといったところについての検証の場についてはまだ考えていないところです。何らかの方向性を出して特に美都町、旧美都町旧匹見町の皆さま方にお示ししたいと考えております。

(委員) ということは、まだ全然決まってないということ？

(市長) そういうことですね。

(委員) けどまあ、それがあんまり間をおいても良くないと思いますので早急にどのようにして、まあこういうのは無くなるんですよね。これがどこに言われるのかよくわからないけれども、ほんとはもっと早くやってその具体的なことを考えていただいたら一番良かったんですけども、あんまり間を置かないで考えていただいて、それをさっき私が言ったことをどのようにしていくのか、これをやりますというのをどの場で発表されるのかよくわからないのですけれども、だからそれを検証する場というの、例えば市政座談会、市長と語る会というものはあるけれど、それで済みますのか、それは何度もやっとなったわけで、だからそれは、それで済みますのか、いや、新たに今まで言うなら設置条例による条例による設置ではないけれど、例えばこういうのをやってみようと思いませんかというのが頭の中にあるのか、そこで色んなところで報告させてもらいますというのか、その辺を早急にちょっと検討していただければと、市の方からとりあえず任期が終わったけど委員さんに報告をしてこういうふうな形でいただいたご意見は、こういう形で対応しようと思わずと教えていただければとは思いますが。他の委員さんの意見もありましようから。

(委員) 先般要望書を会長さんと御一緒した時も、私も思いをそういった〇〇委員さんが言われたように、なんらかこの協議会に代わる皆さんの意見というか地域の意見を反映する場というのが、確かに必要だと思うんですよね。こういった総合支所の在りようも話してきましたがだんだんその辺が細くなるとか、地域においては自治組織がだんだんとなってくるんですが、それも各地域においては、十分な煮詰めもまだしとらない。特に二川辺りは今年から交付金をもらってでもやろうというような形になるんですかね。まあ、美都町・匹見町・益田市の周辺部も合わせてだんだん元気が無くなるような、高齢者だったり人口拡大といっても子供たちが居ないという、そういった時に何がこの地域に必要であって、各地区でこういった話を盛り上げていかないといけないというのが、行政からの働き方も必要だし、地元からもそう言った声を出していく、そういう意見の場所というか集約するというか、当然議会の方に美都の方から 2 人いらっしゃるのですが、各地区のそういったことの取組を話す場、そういったことを何らかの形で、〇〇委員さんが言われるように早い機会に 10 人規模なのか 8 人規模になるのかとか是非考えてほしいです。

(委員) 先程の市長の市政方針を大まかにお聞きしました。就任されてから常に「幸福を最大に」を目的にして人口拡大という大きな課をつくられ、そしてまた昨年度SDG s という本当に大変大きな大きなグローバルな施策を掲げられて本日まで歩み寄られました。で、先程の中に SDG s の中の誰一人取り残さないという中でソフト・ハード面両方について、ここに掲げられている企業との連携強化というようなことでこれはハード面と思うのですが、ソフト面でかなりの SDG s の 17 という目標の中で益田市としたらどのような、ソフト面ではどのようなことで SDG s の裏面を掲げていくのかとお聞きしたい。

(市長) SDG s については、今具体的に活用とまた昨年度から変わったこととしては、市で作る計画の冒頭にその計画が SDG s の 17 の目標のどの項目に該当するかということをお必ず明記するようにしています。SDG s は非常に広範囲な内容でありますけどその中で益田市が地方自治体として関連する事柄についてはその計画を進めて行く中で当然明確に意識せざるを得ないと、そういう考えからそのように改めております。あと SDG s にさらに密接に関連するものとして 6 ページの上の段落です、スマートシティモデル事業の先行モデルプロジェクトとして採択された IoT 関連事業は、益田モデル、益田モデルというのは、植物由来の技術で薬品とかではないけども非常に自然に優しい、生と死の本来の力を引き出す、そういった効果のある物質です。そういったものを促進することによって地球環境にも貢献していく取り組みをしていくということです。いま益田市で SDG s ということについて取り組んでいるということは大きく言うと以上です。

(委員) ま、ちょっとこういった専門的なことになると、ちょっとまあなかなか市民の皆さんに解りかねるのかなという、私はちょっとそう感じたのですが。合併から 15 年益田市民が美都町と大きく様変わりしました。私も様変わりしました。そういった中で 65 歳以上は益田市で 38.1%美都町なんかはもっと高いと思いますなかなか最近ですね、元気なうちに他県にいる子どものところに移住するって、いうのがちょっと連続で起きております。非常にさみしい思いをしたりしているところです。益田市の空き家対策を見てみると、美都町もその空き家を登録している方も居たりして、そのうち埋まっているのもあるのですが、そういった中で気持ちを皆さんに聞いてみると、なかなか益田への移動ですかね。美都町も生活用品、食べ物を扱うお店が 1 軒になってしまって、病院通いもなかなか大変になったりして、免許返納をし、益田に出ても思うようにいかなかったり、もどかしさもあったりして、本当にこの地で市長さんが立てられた幸福の中でも小さな幸福を求めていく、それも有りと思うのですが、みんな元気で地域の病院を使わないようにして何か目的をもって生活をすればいいのですが、なかなかそれも難しい面もあり、今後ですね、本当に私もグローバルな政策といいますか非常に私もこれからの子どもたちの未来のために共感するところではあるのですが、こうしてこの地で何とかまあ少しでも生きていたいと思いますので、例えば移動のこと福祉バス、どの市町村にもあると思うんですけど、そういった福祉バスであるとか、そうした小さな事に少し目を向けて、益田市の奥部におきましても同じだと思うんですけど、なんとかそういう世代も多いのでこれからもそういう面も考えていただきたいと思えます。

(市長) そうですね。とくにやっぱり高齢化が美都町は益田市の中心部より高いですし、今具体的におっしゃった高齢者の方の中で元気なうちに都会の子どもさんと一緒にという事例も私も具体的におっしゃられたことがあるんです。できれば住み慣れた地域で本当に亡くなるまで安心して暮らしていただける環境を作ることが大事ですので、どうしたらそういった安心して暮らしていただける基盤を保っていくことができるのか、本当にこれは行政の大きな課題でありますけども、住民の皆様方、特にこれについては今後設立されていきます地域自治組織の皆様と本当に具体的な話し合いをして、一步一步今ある課題を解決していかなければならないと思っています。なかなかすぐに答えが見つかるものではありませんけれども、一步一步そうした努力を継続していきたいと思っています。

(会長) 他にありますか。

(委員) いいです、もう少し。あーやって、コロナウイルスがですね、島根県にはまだ一人も発病者が居らないですけども、今都会の方では島根・鳥取に、都会におられる方が帰ってもあそこら辺は、医療体制がなっていないから都会に比べれば、だから田舎は行っても治療してもらえないかもしれないから帰らない方がいいという報道があったというのです。実際に市長は、益田で言えば日赤、浜田は浜田の医療センターそれで例えば新型コロナが入ったら何人収容可能なのか、人工呼吸器が何台あるのか、それとなんとかもう一つあるんですよ、血を出してそれに酸素を入れて体内にもう一回送り込むという、かなり高度なもんが益田にあるのかというようなことを早めに調査しておかないと。こんだけ世界で蔓延する、いつ益田に入って爆発するか、田舎は危機感が無いんですよ、はっきり言って都会よりもそういうのを既に調査をされておられるのかとか、そういうのは単なる都会の噂なのか、せめて日赤、他の病院は無いのかよくわからないですけど、益田じゅうの病院に要するに何人ぐらいまで対応可能なのかそういう設備はどうなっているのか、しっかり調べていざという時には先手先手でやっておかないと何かあった時には遅いと思います。何かあった時には、調査とかされておられますか？

(市長) まず、感染症については、感染症に関する法律があって基本的には保健所を管轄する都道府県あるいは、一部政令指定都市が当たることになっております。市町村としては、そういった活動に対してスムーズに住民の方を繋げていくということが一番大きな使命になっている。感染症対策の中では、おっしゃる通りに、益田赤十字病院が感染症の病床を持っているところです。大変すみません、わたくしがその病床がいくつあるか、コロナウイルスの治療に必要な医療機器が何台あるのかについては、承知していないところです。ただこれは、ある程度広域的な取り組みが必要などころではありまして、実際には島根県内では発症者も感染者も出ていませんけども、感染の広がりに応じて一時的には、都道府県、島根県が適正に配置をしていく、今は何床数しかなくても、その地域で増えればその病床数を増やして医療資源をそこに集中するとかといったような手立てをしていきます。市としてはそれ出来る範囲でサポートすることと、住民の皆さまに与えられた情報を積極的に周知していくことであるというところです。

(委員) やっぱりある程度は把握しておくのと、今大阪とか東京とかロックダウン

というのですかね都市閉鎖になると、その前に都会の人がこっちに帰ってくる可能性があるわけで、何かあったら困るから帰ってきたその人が保菌者の可能性があるからちょっと今怖い状態になってきよるんじゃないかと思うんです。例えば帰ってきたのを2週間隔離するわけにいかんでそういうの無理なんで、今は病気の方、前は保健所に通知をして保健所から病院に行きよったが、今は直接病院に行けるように法律が変わったはずなのですよね。だから一応保健所に電話するけれど、前は保健所を通さないとだめだったけれど、今は一応連絡くださいと病院に行くというように、今は症状を聞いて病院に行くような体制に変わっていったと思うんですけれど、やはりそういうことも今から先、東京とかやばいらしいので、考えられるんで、やはり益田は先手を打ってそうなったらどうするか市内でしっかり話をして、ほんとうちの娘なんか帰ろうかと言ってるんですよね。大阪は怖いから、留まる者も居るし、そういうのが今からもしかして東京なんか出てくる可能性がありますよね。飛行機で帰られるのなら、石見空港の水際対策をするのかとか、やはり既に考えていかないと、1週間ぐらいで死ぬような病気なのでもっと危機感を持ってやられた方がいいと思います。

(市長) 率直なところ最終的には島根県が考えて県内全体で何らかの対策をとられることですので、益田市単独でそういう感染症対策というのは限界があるというか、ほぼできない状態になっています。たとえば学校を開くとか、卒業式を行うとか、こういった判断は学校の設置責任者、市立小中学校については、これをする権限も、責任もあるわけですが、空港の検疫対策はどうするかについては、全く何の権限もないところです。ただ決まったことについての情報は当然いち早く収集して、市としてそのことを充分把握するとともに、市民の方への周知をするということになります。

(委員) 県に言うことはできるんでしょ、こういうことを考えられるけど、県としてどのように対応するのかとか、情報をとにかく教えてくれないとそういうようなことはどんどん県が担当なら県に言う、市が出来ることは市がやる、日赤の病床を調べるくらい市でできるはずですよ。今、日赤に人工呼吸器は何台あるんかとか、今空きベットが何台あるんかというのは、別に市で秘密なんで、守秘義務があるんで、ないと思うんですが、出来ることはしっかりしてくださいということです。出来んことまでやれとは言いませんけど言うことは県に言う、特に空港は出雲空港と、島根県には3つですよ、その辺ですよ、その辺をしっかりやって何か危ないみたいなんで。

(会長) ほかに何かありますか、無いようでしたら協議事項の方は閉じたいとおもいます、それでは協議事項については以上で終わります、情報提供の方に入らせていただきます。

まず最初に令和2年度的美都地域の主要事業についてお願いします。

5. 情報提供
・令和2年度美都地域の主要事業について

(事務局) それではお手元の方に令和2年度美都地域内の主要事業ということで資料の方を載せております、資料の方を見ていただきましてここに書いてありますのは、今年度令和2年度で政策的に主要な事業として予算化されたものをあげているところです。

まず、事業内容の方と事業名と書いてありますけども、二川小学校跡施設活用事業ということで事業名につきましては 8,000 千円、事業内容につきましては、改築の実施設設計費という内容です予定工期等については記載のとおりです。

それから次に、美都温泉用水確保対策事業ということで 8,000 千円これにつきましては、源泉と水井戸の孔内調査及び揚湯管の交換・ポンプの交換を予定しております。

次に自然環境整備交付金事業、これは双川峡の落石対策の工事でございます、50,000 千円を予算としております。内容といたしましては落石防止の対策としての高強度ネットの設置それから転石の固定ということで予定しております。

次に矢原川ダム関連道路整備事業ですけども、これにつきましては事業費といたしまして 62,700 千円、内容といたしましては、丸茂三隅線の測量設計等の委託料と併せて工事中道路の工事負担金ということで、これにつきましては、丸茂三隅線は 5m の道路幅員でこれまでも、改良してきているところです。丸茂三隅線の丁度、また話すことがあるかもしれませんが、中間あたりに矢五郎橋というのが、明正寺の入口の 500m ぐらい上流でしょうか、在りましてその谷間の所をダムの残土処理場ということで計画がされております。更生橋からそこまでの間の所は工事中道路で道路改良と工事中道路と合わせて合併施行をしていこうということで、仮設道路につきましては工事中道路につきましては、4m の幅員なんですけども、それからまた終わった後に市道改良で、5m やるのは非常に不効率だということで、当初から工事中道路と併せて 5m で、工事中道路と大道路改良を併せて行うということでその幅員で言いますと、4m か 5m になるわけですから、20% 部分は、市の方で負担をするというような形になっています。これが工事の負担金ということで出てまいります。

それから道路整備交付金事業ということで、85,000 千円ということで予算を上げております。内容につきましては、市道丸茂三隅線それから大峠線、都茂市金線というこの 3 カ所でありまして丸茂三隅線につきましては、現在河川の付替えをやっておりますけども、その上側法面の方からして、法面对策をやっておりますけどもその区間の舗装等がまだされておられませんし、法面の前後の若干の取付の法枠等が残っておるといことでこの辺の対策のための内容です。それから、市道大峠線につきましては、令和 2 年度で完了するという見込みで最終年度と工事が完了するという見込みで今あるところです。それから都茂市金線ですけど、これはブロックがクラック来ておりますけども、ここの所の改良を行うというものです。

それから最後ですけども矢原川ダム関連簡易給水施設整備事業費補助金ということで、これはダムの水源地域対策事業ということで宇津川下・丸茂下地区のところで簡易水道が復旧しておりませんので、それに代わるものとして地域の要望として出たものの水源確保という内容であります。来年度につきましては 5 戸を予定しているというところでございます。

以上で説明の方終わります。

(会長) 令和 2 年度的美都地域主要事業について何かご質問なり、ご意見なりありますか？

(委員) 二川小学校跡地活用事業で 8,000 千円実施設計費となってるんですけども工期が令和 2 年 7 月から令和 2 年 12 月となっておりますけども、これは実際の簡易執行分となるのはまだこれは設計費の 8,000 千円ですか。

(事務局) そうです。これは、小学校が1階2階とありますけども、そこも改修する実施設計ということです。工事は来年度。

(委員) 来年度になるんです、工期というのは、設計の工期ということなんです？ そうなんですか、来年度の事業になるんですか、工事は3年度。

(委員) すみません、財源の方を教えてください二川小学校から。

(事務局) 二川小学校は過疎債です、それから温泉の方は基金対応いたします。それから自然環境交付金ですが、字のごとく交付金で行います。

(委員) 全額？

(事務局) いや、1/2です。

(委員) 市の持ち出しは、1/2。

(事務局) それからダムに関連のところですけども、これはですね62,700千円これにつきましては県の補助金を貰うことになっております。

(委員) 全額ね。

(事務局) それから道路整備交付金ですけども、これはですね約半分が補助金で、あとは起債対応。

(委員) 双川峡の分85,000千円は半分交付金、半分起債？何債？過疎債プラス一般事業、おおまか過疎債ね。この15,000千円は？

(事務局) 県補助金です。

(会長) それでは次に地域コーディネーターの活動報告について河野さんをお願いしたいと思います。

・地域コーディネーターの活動報告につ

(コーディネーター) 皆様お疲れ様です。美都地域づくりコーディネーターの河野です。令和元年度年間事業の活動報告についてご報告いたします。年間を通じて取組んだ事業項目につきまして定住支援、情報発信、交流事業の人口拡大、特産品等の販売拡大、集落対策、着地型観光事業、地域資源の発掘と利用、その他となっております。

1の定住支援につきましては、県外へ定住・移住希望者のUIターンフェアに参加しております。こちらが東京と広島のUIターンフェアに参加しております。続きまして定住支援の方ですが、空き家調査と空き家バンク登録物件の見学に同行しております。美都町内の空き家調査につきましては、昨年4月から今年3月まで4件の空き家調査に同行しております。空き家バンクの見学も4月から3月まで3件の空き家バンクの見学に行っております。ちなみに美都町の空き家バンクにつきまして

は、8件の登録がございまして交渉中が2件となっております。また美都町内の暮らしの情報を空き家バンクの見学者に対して情報提供の方をさせていただいております。UI ターンフェアですとか近畿美都会の総会資料にもこの空き家バンクの情報を掲載して広くボランティア情報を情報発信いたしました。

2番目の情報発信についてですが、SNSを活用した情報発信を行っております。これはもう過去にもフェイスブック美都っ子暮らしの方で情報発信しております。主に美都町内外の行事・イベントや美都町の地域資源、柚子、桜、温泉、石見神楽、地域の石州犬石号の情報を情報発信しております。昨年4月1日から3月31日までの現在まで計140回の更新をしております。その他宣伝広告費を使って、「ゆずボランティアホリデー」ですとか、ふれあいホール事業のイベントの方を広く情報発信をさせていただいております。続いてページをめくっていただいて、情報発信マイメディアでの美都地域での情報発信ということで、ラジオ、TV 集合都市への美都町に関する情報発信の広聴活動を行いました。左側が今年の「ゆず収穫ボランティアホリデー」なんですけど、こちらはひとまるビジョンさんに取材の方に来ていただいております。また参加者の募集につきまして中国新聞さんと読売新聞さんの方に募集の記事の方を依頼してそちらの方で参加者が多く募られたかと思っております。またNHKさんが毎年ゆず湯の紹介の方に来られるんですが、こちらの方の情報発信の支援のお手伝いをさせていただいております。

3番の交流人口の拡大につきましては、柚子を活用した交流事業の企画・調整役等を行っております。先ほど言った「ゆずの収穫ホリデー」なんですけど、今年は全体で9名参加されております。大阪から1名広島県から7名益田市から1名、こちらも先程と同じように、中国新聞と読売新聞さんの方にこの記事に依頼した効果で参加者が昨年と比べると増えています。参加者のアンケート調査を行ったことで、また来年も参加したいという声も伺っておりますので、継続して行えたらと思っています。隣が「いわみん」というのが島根県西部の方の体験事業の方を行っておりますがこちらの方で特産の柚子を使ったシロップ作りを行いました。こちらは益田市から親子6名が参加しております。当日松江市から4名キャンセルが出たんですけども東部までこの事業は浸透してきていると伺えます。お隣が「しまね田舎ツーリズム」で県内研修ということで雲南市に行っております。こちらでゆず味噌・柚べし作りの体験を東部の方に行いました。県内から30名の方が参加して交流ができました。

ページをめくっていただいて4番特産品等の販売拡大ということで美都町の特産品の都市部への紹介と販売宣伝支援の活動を行いました。左側の大阪伊丹空港の空楽フェスタの方で道の駅サンエイトさんと一緒に美都町の特産品販売の支援を行っております。左側が広島駅で行われました石見地域の魅力発見フェスタの方でこちらも同様に道の駅美都サンエイトさんの方の支援を行っております。また今年の1月の島根ふるさとフェアの方でも同様に販売支援の方とまた色々商品の説明をさせていただいております。

5番目ですが集落対策ということで公民館行事、イベントの後方支援を行いました。続いてページをめくっていただきましてこちらは各地域の行事イベント等で支援を行っております。

6番ですが、着地型観光事業ということで昨年4月から一般社団法人益田市観光協会の方でですね、益田市観光協会地域づくりコーディネーターの委嘱に基づいたサポートということで行いました。益田まつり・益田水郷祭・歳末助け合い神楽の方、

また、なんでも鑑定団のイベント支援とかをさせていただいております。

ページをめくっていただきまして、一般社団法人益田市観光協会の着地型観光をサポートするというので、昨年京都清明高校さんの修学旅行の受け入れを、当日のアテンドですとか、体験のサポートの方をさせていただいております、今益田市が積極的に取り組んでおりますサイクリングイベントの方のこちら高津川カヤック体験とジビエ BBQ&フルーツ満喫ライド等の支援もさせていただいております。右側ですが益田市と提携がある TABICA さんと訪日がらみの視察ということで今年から、今年 1 月から訪日観光アドバイザー、ハレ・ローランさんが、昨年 9 月に益田と津和野に来られて、そちらに実際に一緒に視察の方を行いました。その際には、美都では町おこし隊の記載は無いのですが丸茂神楽社中さんの練習風景を見学していただいたりとかあとまた、フランスでゆずが今注目されていますのでその宣伝ですとかお話をさせていただいております。

6 番目に同じく観光協会のサポートということで、トワライトエクスプレス瑞風の益田駅のお出迎えて、これは 9 月に入って瑞風のお出迎えてをさせていただいたりとか着地型旅行推進部会の方で、今美都町でやっている体験型プログラムの方の説明とかさせていただいております、その他美都で行事の情報を提供したりだとか益田市の観光協会内の業務の方させていただいております。

続いてページをめくっていただきまして地域資源の発掘と利用ということで、美都町にある地域資源を活用した体験プログラムの企画と実施日帰り体験の企画を行っております。右の昨年の「いわみん」のゆずシロップ作りですとか、長門市という益田市から長門までの主に女子旅の、これはですね美都温泉さんで今ピラテイスというのをされておるので、情報提供だとか事務局の調整をさせていただいております。右側ですが毎年行っております「しまね田舎ツーリズム」の親子体験キャンペーンの方で神楽面の絵付けの調整役を行いました。こちらは今月 3 月に実施予定でしたが今の新型コロナウイルスの影響もありまして中止になっております。

下に参ります地域資源を活用した体験プログラムを企画実施ということで、今年度ですね広島の中新聞、広電の中新聞旅行社さんの日帰りツアーを企画しました。こちら春のプランということで今年の 4 月 2 日に美都町の「蓬のお焼き」作りだとか、うずめ飯、金谷の城山桜鑑賞、美都温泉湯元館の温泉入浴というのをツアーの内容に入れまして、こちら日帰り旅行を企画しました、これもですね、今新型コロナウイルスの影響で催行中止にはなったのですがここまで美都町の体験プログラムで旅行まで持って行けたことが成果かなと思っております。秋に関しては現在調整を行っている状態です。

続いてページをめくっていただきまして地域資源を活用した体験プログラムを企画実施ということで、今年の 2 月に石見エイジェントツアー商談会というのに参加しております。こちらは関東圏の旅行会社 9 社と地元の旅行会社の 1 社の全 10 社が参加した旅行で主に西部の方を視察で回られました。益田の方は実際に見学というのは無かったのですが、益田もこの旅行会社さんに提案ができないかということで益田と匹見と美都と連携をしてそれぞれの特色を活かした観光資源とかモデルコースの提案を行っております。美都町からは今旬ですが、石州犬石号の話題を主に、益田市の観光と含めながら提案を行っております。美都町だけでは無くて益田とまた匹見と連携しながら、日帰りコースや宿泊を伴うコース作りが出来ればいいかなと思っております。

下の地域資源の発掘と利用ということで、地域の若い世代と一緒にまちづくりと

ということで都茂地区の若者会への支援参加を行っております。こちらは昨年と同様ですが都茂地区の自治会長さん、地域住民との意見交換を通して、自分たちが地域にとって何ができるかというのをいろいろ考えております。また今年は丸茂の秋の納涼大祭へ参加して約15年ぶりに赤い色塗りをしている赤い鯛を出して神輿を行ったり、また各地域のイベントにも参加して地域を盛り上げることをしております。その中で情報発信とかそちらの方を私の方でしております。

その他ですが勉強会、研修会ということでこちらの研修会に参加して自分のスキルアップとか人脈作りの方を行っております。またその他人口拡大課、地域振興課、地域団体と連携をしながら行事ということで毎年行われています。近畿美都会だとか、また空港での定住PR活動、秦記念館で行われる菊花展の方の活動支援を行いました。

4年と2ヶ月こちらコーディネーターの業務をさせていただきまして、ほんと年々報告をさせていただくのですが、思ったような成果が僕の方では出せなかったかなと思うのですが地域の方々いろいろなご支援をいただいてここまで仕事をする事が出来たかなと思ってます。一応3月をもってコーディネーターの方は終わらせていただくんですが、引き続き自分出来ることで、美都地域に貢献していきたいと思っています。

以上になりますありがとうございます。

(会長) どうもありがとうございます。何か皆さん聞いてみたいことがあればどうぞ。

(委員) あの、すみませんほんとにお疲れ様でした。こうして見ましたら柚子の関連したものを発信したり、体験だったりということで非常に多く思います。今日もこうして市長さん来ておられまして、私が言うまでもなく本当に美都町の柚子っていうのは、私も広島に同級生が居て、その人は柚子のからしを、毎年柚子を50キロ買ってわざわざここにきて買って帰るんですけどあちこち県外を回ったけど、美都町の柚子が一番いいということで、もう3年ぐらいになるんで来てるんですけど、こうして益田市的美都町ほんとに私大きな大きな片腕にでもなる、柚子と温泉という地域資源は、ほんとにこのままいい柚子を作り続けて、先程フランスのシェフの方の話もありましたけれども、旬の物を皆さん高齢化になってきてますけども、だんだん手放す方もおられますけども、なんとかですぬこの美都町の柚子を廃ることのないようなものとして、続けて行って欲しいなど、そして美肌というのがここに載っていましたが、ああして温泉であったりとか、そして、実際にあります鉾山、そしてあの丁度コロナが世界で猛威を振ってますけど、あの当時ペストという流行ること15世紀の時ヨーロッパからきて、日本の水際で秦博士が岡山と神戸だけで抑えたという、非常に病気がうつるかもしれないというのを8年間も研究したという、そうした非常に美都というのは、誇るべきものがあるというように、私たちは思っているわけですけど、いま市長さんが居られますので私が言うまでもなかったんですけど、こうしたこういったことを廃らないように、今日までで終わりで、なかなか市長さんを前に言うことも出来ないと思いましたので少し言わせていただきました。

(会長) 河野さんには先程ありましたように、今年度末で5年間の契約期間が切れ

て退職の予定と聞いております。今日まで様々な交流事業とかでありますとか、イベント、情報発信等にご活躍をいただきまして本当にありがとうございます。今日までのご努力に御礼を申し上げます。本当にありがとうございます。また聞きますところによりますと、4月から新しい職場に行かれるようでございますのでお体に気を付けて頑張っていたいただきたいと思います。このですね、コーディネーター事業等の今後についてですねちょっと事務局の方から今後どうするかというのを話していただきたいと思います。

(事務局) 先程会長さんの方からありましたように地域コーディネーターにつきましては5年ということでスタートいたしました。5年がですね、河野君も途中からの引継ぎということで、4年と数か月ということでございますけども各地区ですね、地域自治組織もできていたり、またその地域独自でいろんな活動を今展開をされておるところも今実際あります。美都町内も先般日曜日にですね、都茂地区の地域自治組織も立ち上がったということをお聞きしておりますが、これまでですね、交流事業だとか情報発信それから特産品ですね販売といいますかそういう情報発信もしてもらったとのことですけども、市長の当初の市長方針にもございましたように、地域づくり、それから人づくりにつきましては、中間支援組織の方で重点的にやっっていこうということになっておりまして、あと交流事業でありますとか地域の情報発信これにつきましては当面の間、匹見と美都と1名のコーディネーターを配置しながら引き続きやっっていこうという、今の河野君が手掛けております広電との観光、地域観光なんですけども、その辺のところも今コロナウイルスの関係で少しお流れという形になっておりますけど、これも引き続き地域コーディネーターの方でやっっていくということで、今度は交流事業、情報発信に主に主幹を置きながら今匹見の方でコーディネーターとしてされております、石橋さんという女性の方なんですけどもこの方に引続き美都地域・匹見地域とそれぞれにやっていたところをまた美都と匹見の柚子と山葵じゃないですけどそういう繋がりを持ちながらまた事業展開も出来るかもしれませんし、そういうことで今後につきましては交流事業と情報発信の方を主に進めていってもらおうということになっております。以上です。

6. その他

(会長) それでは情報提供は以上で終わります。その他のところで冒頭でお話しましたが、今回人事異動の内示がございまして報道発表の方で皆さんご存知かもしれませんが支所の関係があれば紹介をしていただきたいと思います。

(事務局) それでは人事異動の関係の前にすみません少し予算のところでも申し上げればよかったのですが、ここの主要事業のところですね、上げておりますのは、いわゆる予算があつて事業を展開していくというものを上げておりますけども、実は0予算でですねこれまでも前回の地域協議会でも報告をさせていただいたと思っておりますけど、「もっと・ずっと・元気に暮らそうツアー」ということで、地域の高齢者の生活支援という事業でですね、12月・1月・2月と3回試験的に行ってまいりました。それでですねこの高齢者の生活支援ということで今後もやっぱり続けていこうということになっておりまして、2年度以降もそういう高齢者の生活支援事業を行っていくという報告をまずはさせていただきます。

(支所長) 補足させていただきますと、この「もっと・ずっと・元気に暮らそうツ

アー」なのですが、これは先程ありました SDG s に身近なところで達成できる一つの事業として考えております。SDG s というのが経済と社会と環境、この3つの要素がそれぞれ絡み合ってお互いに好循環をしていくというようなものになります。高齢者の方が外に出ていただくことで要介護状態になりにくい、社会とのかかわりを持つことで一つ元気になるということですが、その社会に出ていったところでいろいろな人が交流、今回給食というものを一つ使います、地産地消をそこで推進ということがありますので地産地消ということで環境が保たれる、そして商店で買い物もしていただきたいと思っていますので経済もそこで回るということで、この3つの要素で社会と経済環境というのがお互いに好循環するという一つの狙いを持っています。そういう身近なところで世界の目標という SDG s の達成に一つ影響していくというのが皆さんの極身近であるということをしていただけたらと思います。

(事務局) それでは人事異動の内示について。

(会長) そのほか何かございますか。

(委員) あの新型コロナウイルスの関係で行事等は全てがほとんど中止になったり延期になったりありますけども、先般神楽のライブ配信をしたというので、とても好評で、浜田でしたよね、とてもよかったという話がありましたけども中止になったり延期になったり中止の分もライブ配信が可能なものなら発信するとか、特に神楽とかはとても好まれますのでそういう形で何か考えてみて下さったらと思います。

(会長) 無いようでしたらこれでおきたいと思いますが、今回も通知の時にもお伝えしていただきましたが、最後でございますので会議終了後に意見交換会を予定しておりましたが、コロナの関係で安全防止の観点から大変残念ですが中止とさせていただきます。ご理解をいただきたいと思っております。地域協議会委員の皆さんには長期間にわたりまして、市長さんからも最初にご挨拶をいただきましたが合併調整交付金・諮問答申・予算編成・建設計画各種報告など様々な協議をいただきまして大変ありがとうございました。市長さんにも大変お忙しい中再三にわたって出席いただきましてありがとうございました。また事務局の支所の職員の皆様には、長年にわたりましてお世話をいただきまして本当にありがとうございます。心からお礼を申し上げます。委員の皆様方には今後は立場を変えて地域のために活躍をいただきますようお願いを申し上げて終わりにしたいと思います。本当にありがとうございました。

— 午後4時45分終了 —

7. 閉会

第 78 回地域協議会の顛末を記載しその相違ないことを証するためここに署名する。

令和 年 月 日

議事録署名者

同